

酪農学園大学

夏号
Vol.148



高大一貫教育「アグリトライ」において
教職コースの学生が高校生に草花の栽培方法を指導している様子

ルカによる福音書11章34-36節

聖句

あなたの体のともし火は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るい。濁っていても、体も暗い。だから、あなたの中にある光が消えていないか調べなさい。あなたの全身が明るく、少しも暗いところがなければ、ちょうど、ともし火がその輝きであなたを照らすときのように、全身は輝いている。





国境無き教育の展開に向けて

理事長 谷山 弘行

「平成」の世が終わり、「令和」の時代になりました。新たな時代に期待を寄せる声が聞こえてきます。

2020年には2回目の東京オリンピックが開催されます。「令和」始まってすぐのビッグ・イベントを多くの国民が楽しみにしています。昨年バドミントン世界選手権女子ダブルスで優勝、金メダルを獲得した酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校の卒業生がいます。女子ダブルス世界ランキング1位に輝く松本麻佑選手です。永原和可那選手(芽室町出身)と永松ペアと称され、東京オリンピックでの活躍も有望でしょう。さらに、女子ソフトボールも注目される競技ですが、今年の春、そのU18選手の一人として選ばれた中川唯選手も卒業生です。こうした動きは2010年、トップアスリート健康コースが設置された高校改革8年目の成果であると言えるでしょう。世界で活躍する「とわ」の姿が今後も増えていくことを期待したいと思います。

附属とわの森三愛高等学校では、今年度からグローバル教育推進室を設置しました。西田丈夫校長の成長戦略の一つで、今後の高校受験生激減期に備える長期計画のスタートであります。我が国の少子化が既定の事実にある中で、生徒の確保が喫緊の課題であります。学ぶ生徒に国境を設定しない教育を、計画し具現化するための組織として立ち上げました。日本で学びたい人々、自分の将来をわが国の教育の中に見出したい子供たちに、教育を提供し、さらには大学へと繋がるプロジェクトであります。酪農学園の「建学の精神」を学び、世界に普及してもらおう一員となっていただくことであります。5月初旬、その活動の一つとしてモンゴル国を訪問しました。首都ウランバートルの日本語学校5校を訪問し、日本での学びに強い関心を寄せる生徒たちに会いました。日本語を自由に操るその子供たちの輝く目は、心深く感じるものがありました。半世紀前の日本の子供たちもあの様な輝く目をしていたような気がしました。その一つ、「新モンゴル日馬富士学校」も訪問しました。土俵設置も計画され、横綱の日本愛が隅々まで表現されていました。これを皮切りにアジアを中心とした国境無き「とわ」教育を展開していきます。

この4月、酪農学園宗教主事として朴美愛先生が着任されました。学園創立者黒澤西蔵の唱える「建学の精神」を、聖書を通して学ぶ導きを担当していただきます。教員、職員及び学生を問わず、その学びに参加していただきたいと思います。



酪農学園大学のブランドマークとキャッチフレーズ誕生



現在、多くの大学が各々の「ブランド力」を表に打ち出すよう力を入れています。ブランド力は、大学の理念や地域の風土・歴史といった特色や個性を知ってもらい、大学の価値を高く評価するために利用されています。

酪農学園大学では2000年に校章(シンボルマーク)が誕生し、本学の目標・理念を表現するツールのひとつとして役割を果たしています。そして、2019年4月に経営戦略のひとつとして、「本学の認知度・興味・信頼度の向上による学生の確保」を目的に、一目で酪農学園大学と分かるブランドマークとキャッチフレーズを作成しました。

経緯

酪農学園には、「健土健民・循環農法・三愛精神・実学教育」など本学を象徴する言葉がいくつかありますが、この中から循環農法図の現代版を作成し、ブランドとして利用する案が竹花一成学長より出され、検討を開始しました。

検討を進める中で、ワーキンググループでは各学群教授会からの意見も参考に「黒澤酉蔵翁の作り出した循環農法図には手を加えるべきではない」との考えに至り、当初の目的である「認知度・興味・信頼度の向上による学生の確保」に焦点を絞りワーキンググループ内で再度検討した結果、全国からの一般公募をもって酪農学園大学ブランドマークを作成することになりました。

応募受付期間は2018年10月～12月の2カ月間と短い期間でしたが、ブランドマーク268点、キャッチフレーズ963点と、本学の学生・教職員含め全国のプロ・アマ問わず多くの皆様からご応募いただいた結果、ブランドマークは江別市在住の中島絵理香さん、キャッチフレーズは札幌市在住のコピーライター池端宏介さんの作品に決定しました。

選考に関しては、ワーキンググループ9名が一次選考を行い、その後は酪農学園大学教職員約500名を対象とした投票により決定した上位10作品の中から、学長が最終決定する形となりました。



記者発表



竹花一成学長は「ブランドマークは本学の特徴でもあるキャンパスの広さとそこで学ぶ我々とそこに居る動植物すなわち『大きな大地の中に育まれる生命』をシンプルな形と色で表しています。キャッチフレーズの“生きるを学ぶ。学びが生きる。”は大学で得た知識がその先にある酪農学園人としての社会貢献が明確に表されており、それぞれの作成者は本学を十分理解して作成されていることが分かり、本学で育てられた者として大変嬉しく思います。このブランドマークとキャッチフレーズを用い、私の考える実学教育(知行合一)を教育の柱とした本学の教育方針をブランド力として高め、認知度の浸透を目指します」と講評と抱負を述べました。



2018年度 学位記授与式



2018年度学位記授与式が3月20日、本学体育館にて行われ、保護者や教職員が見守る中、739名が学び舎を巣立ちました。

2019年度 入学式



2019年度入学式が4月4日、本学体育館にて行われ、新入生786名がキャンパスライフをスタートさせました。



「サンディー」初登場！

1周年を迎えた『酪農PLUS+』のマスコットキャラクター「サンディー」が入学式に初登場し、新入生の人気を集めました。

北海道農業共済組合連合会等と包括連携協定を締結



本学と北海道農業共済組合連合会および道内5つすべての農業共済組合は、優れた産業動物獣医師の育成・確保を目指して、2月22日に包括連携協定を締結しました。今回の協定によって、すでに一部で行われていた農業共済組合との交流を北海道全体へ拡大するとともに、産業動物分野の発展やそれに関わる人材育成について更に連携強化を推進していきます。

SDGs(持続可能な開発目標)達成に貢献



SDGs(持続可能な開発目標)は、2015年9月に国連総会で採択された国際社会共通の目標です。本学は、「三愛精神」および「健土健民」という建学の精神、理念に基づき、天一地一人の共生と循環に配慮しつつ、「食」、「農」、「環境」を根幹とした実学教育を展開する中でSDGsを実践してきました。今後も教職員・学生は協働でSDGsに貢献していきます。

食プロレベル3認定第1号

2016年度から本学の新たな取り組みとしてスタートした「食の6次産業化プロデューサー」(食Pro.)のレベル2・3を循環農学類農業経済学コース4年生の5名が認定され、5月27日に、食Pro担当の相原晴伴教授(循環農学類・農畜産物市場論研究室)により授与式が行われました。



第33回(2018年度)管理栄養士国家試験結果

	受験者数	合格者数	合格率
本学	39名	37名	94.9%
全国	17,864名	10,796名	60.4%

第70回(2018年度)獣医師国家試験結果

	受験者数	合格者数	合格率
本学	129名	117名	90.7%
全国	1,141名	942名	82.6%



学生リードマンコンテストに出場!

機農コース1～3年生の9名が4月26日・27日に静岡県御殿場市で開催されたセントラルジャパンホルスタインショウの学生リードマンコンテストに出場し、好成績を残すことができました!



■ 高校2年生以下の部

・セカンドベストリードマン 遠坂 牧人

■ 高校3年生以上の部

・ベストリードマン 岩崎 健太郎

・セカンドベストリードマン 齊藤 勇作

・第3位竹中 徳明、第5位佐久間 拓洋、第6位小林 希綱、第7位道端 拓愛

次年度より新たに2つのクラブが強化指定部に!

本校トップアスリート健康コースは、これまでのソフトボール部、女子ソフトテニス部、バドミントン部、男子ソフトテニス部、男子バレーボール部、サッカー部に加え、次年度から新たに硬式野球部・女子バスケットボール部の2つのクラブを強化指定部として追加することを決定しました。

クラブの実績はもちろん、学業もトップを目指してがんばっていきます。



硬式野球部



女子バスケットボール部

とわの森 × NISECO × SDGs プログラムを実施

総合進学コース3年生が、4月26日にコース行事でニセコ町を訪れました。

「世界にはばたけ。高校生にもできること。～小さなことから始めよう～とわの森×NISECO×SDGs」というテーマのもと、これまで行ってきたSDGsの活動報告をしました。

その後、クラス対抗SDGsフォトロゲイニング大会を行う中で、自治体SDGsモデル事業に指定されたニセコ町でSDGsとは何かを体験学習を通して学びました。



獣医プレゼミ、スタート



獣医・理数コースの高大連携授業「獣医プレゼミ」が今年度もスタートしました。5月20日から数日間、様々な研究室の実験を行い、高校では学ぶことのできない貴重な体験ができました。



被爆桜について テレビ取材を受けました

本校の校庭に植えられた“被爆桜”が今年も満開の花を咲かせました。これは2011年に広島市の安田女子高校から譲り受けたもので、同校では被爆に耐えたソメイヨシノの枝を接ぎ木して育て、全国の学校に苗木を配布する活動を行っています。

本校は譲り受けた中で最北の学校です。植樹当初は60cmほどの高さだった苗木は大切に育てられ、今では生徒の背を超えるまでとなりました。

このことがHTB北海道テレビ「イチオシ!」で取り上げられ、5月6日に生徒が取材を受けた模様が放送されました。





「勉強ができないなら汗をかけ!」 この教えが今に生きている



店舗の前で家族と。妻の絵里子(旧姓 堀尾)さんは、1991年に北海道文理科学短期大学教養科を卒業。学生時代は肉牛研究会に所属。手前は長男の風嬉くん12歳と次男の春杏くん8歳。

2011年に起きた東日本大震災を機に家族で妻の地元の旭川市に移住し、自分のチーズ工房を持った長尾英次さん。旭川市の買い物公園にある築80年の店舗は、リノベーションして1階が工房と店舗になっています。大学卒業から現在に至るまでチーズ作り一筋の長尾さんにお話を伺いました。



【北海道 旭川市】

(株) ジャパチーズ

(Japacheese Asahikawa) 代表取締役

ながお

えいじ

長尾 英次 さん

酪農学部 食品科学科 1995年卒業

プロフィール

- 1972年8月28日生まれ(46歳)
- 出身地: 宮城県
- 酪農家の次男。1987年兄と同じ酪農学園大学附属高校に入学。1990年酪農学園大学に進学し、乳製品製造学研究室(安藤功一教授)に所属。卒業後、渡米し1年間の農業研修を経て、1995年宮城県の蔵王酪農センターに就職。2005年にブルーチーズの商品開発を手掛け、オールジャパンナチュラルチーズコンテストで最高賞を受賞。2015年に(株)ジャパチーズ(Japacheese Asahikawa)創業。2015年旭川信金創業アワードを受賞。



酪農学園大学に入学したきっかけ

後継者になることを諦めていたのと勉強が嫌いだったので、高校卒業後すぐに働くつもりでいましたが、高3の酪農実習で出会った牧場の親方に、「高校生で人生を決めてしまて良いのか？」と背中を押され大学進学を考え始めました。

やはり、小さい頃から両親の仕事を見て育ったので、両親や兄をはじめ、酪農生産者の役に立ちたいという思いから、酪農生産にかかわる何らかの選択肢を探すために、大学に行こうと決めました。当時、食品科学科が設立したばかりでしたので、酪農につながる手立てになるのではないかと期待したのです。



卒業前に乳ゼミのみんなで
(左前 安藤教授、右前 ご本人)



白樺祭での乳ゼミアイス販売。
工場のリヤカーをバイクでけん引、
古い作業着を切って作ったノボリ!!



卒業後、米国ウィスコンシン州の
クレセントミードファームにて農業研修



酪農学園での学びが 生きていると感じたエピソード

乳ゼミでは実験・実習が多く、チーズ作りの仕込みに欠かせないスターター(原料乳の発酵を促す乳酸菌)やレンネット(凝乳酵素)の準備、製造工程の記録にも計算が付きものなのですが、とにかく勉強ができない学生でしたので、安藤先生に「勉強ができる奴は勉強で。勉強ができないなら汗をかけ!」と言われました。毎日のように工場に通い、一から仕事を教わりました。基礎学力不足を指摘されたりもしましたが、技師の先生には弟子のように可愛がってもらいました。振り返ってみても本当にありがたい時間でした。

また、これまで奥さんには苦勞を掛けましたが、今も支えてくれて感謝しています。初めて会ったのは、私が4年で彼女が1年の時でした。乳製品にかかわることのない文理科短大の教養科にいた彼女はどうしても乳製品の製造がしたく、安藤先生にチーズ作りを教わる相談に来たところ、「彼女に乳酸菌の培養を教えてやってくれ」と頼まれたのが出会いでした。その後、再び就職先で会うことになるのですが。

学生時代から現在に至るまで、勉強ができないなら汗をかけ!という言葉通り、『行動すること』と、『教えてくれる人を見つけること』を実践してきました。これは酪農学園での学びや体験が生きていると断言できます!



今目指している 取り組みと今後の目標



Japacheese Asahikawa というブランドや商品を確認し、旭川の名前を発信することで、旭川市に恩返しをしていきたいと思っています。

旭川は母子避難者が多く、市役所も夫・父親不在の家族の支援に尽力してくれました。創業にあたってはチーズの原料となる生乳を提供していただいている加藤牧場(旭川市東鷹栖)をはじめ、た

くさんの人たちが私たちを受け入れてくれたことに感謝しています。酪農学園大学のキャッチフレーズを考えたコピーライターの池端宏介さんは、ジャパチーズの名付け親でもあり、私たち家族にとって救世主の様な存在です。こうしたご縁や出会いに恵まれていることが私の唯一の自慢です。

日本人の口に合うナチュラルチーズの食べ方を提案し、お客様と共有する時間を大切にしています。また、酪農啓発・普及活動として、宮崎豆腐店(上川郡東川町)の豆乳を使ったソフトクリームや谷口農場(旭川市)の有機トマトを使ったチーズ、大雪地ビールの黒ビールを使ったチェダーチーズのコラボ事業を展開していますが、この取り組みや商品もご縁をいただいたことにより生まれました。さらにこの事業により、互いの商品価値やブランド価値を高め、旭川や上川を発信することにも貢献しています。

後輩へのメッセージ

「とにかく腐らず、できることでベストを尽くして楽しんで!」と言いたいです。くさって諦めてしまったらチャンスはいただけません。恰好悪くても一生懸命やることで、チャンスはいただけるとと思っています。「機を知るは農の始まりにして終わりなり」=機農、この教えを活かすためにも、機会を知る努力や感性を磨くためには「信頼を得るまでベストを尽くす」ことが一番の近道であることも、在学中と卒業後の人生を通して証明してきたと断言いたします。



フィットネスビキニと出会い、自分のことが好きになれた



獣医学類4年

和歌山県 智辯学園和歌山高校出身

ヨウ レイ カ
姚 麗花 さん

開業医の両親の元で育ち、小中高一貫校の進学校に通うも成績は下位層。自分に自信がなく、そのためか友だちも少なく一人の時間が多かったと話す姚さん。今まで自分への評価は“勉強”でしか得られず、モヤモヤとした日々を過ごしていた彼女を変えた“フィットネスビキニ”との出会いについて話を聞きました。

きっかけはダイエット

競技を始めたきっかけはダイエットでした。学内のトレーニングセンターで2カ月間、ランニングを続けましたが思うように体重を減らすことができませんでした。そんな時に同センター内で堤さんから指導してもらえることを知り、個別指導を受けるようになりました。すると徐々に変化が現れ、体つきが目に見えて変わりました。トレーニングマシンを使って下半身を鍛えるメニューでは、いつの間にか重りの量を増やしてもこなせるようになっていました。日々の小さな目標の達成がやりがいとなりました。更に、堤さんの紹介でジムでのパーソナルトレーニングも始めるようになり、自信に満ちた人たちとたくさん出会いました。私もこんな体になりたいと、大会を目指すようになりました。



堤 祐一さんの紹介



本学園校務員。ボディビルの審査員として活動。日本ボディビルフィットネス連盟1級審査員などの資格を持つ。これまでにボランティアで100人以上の学生にトレーニング指導を行っている。

東京開催の

第5回オールジャパンフィットネスビキニ選手権に出場

2018年7月に札幌で開催された「第3回北海道フィットネスビキニオープン選手権」東北・北海道地区163cm超級で、姚麗花さん(当時3年生)が優勝し、同年9月24日に東京都で行われた「第5回オールジャパンフィットネスビキニ選手権」に出場しました。

人に支えられていると実感

体作りを始めてわずか10カ月で初出場した大会で優勝したときは、自分の力だけでなく、いろんな人に支えられていると思いました。たくさんの方に応援されたことで、人とのつながりを感じました。

今後の目標

今は目標とする全国大会入賞へと向けて、勉強のかたわら週5回トレーニングを行っています。今後は、獣医師としての視野を広げるため、海外留学も選択に入りたいと思っています。

聖句解説

酪農学園大学 宗教主任 小林 昭博

この聖句は組織の在り方を目と体の関係になぞらえていますが、光に喩えられている目が組織の特別な存在を意味するわけではありません。一人一人が大切な光であり、一人の輝きが失われることが組織全体の輝きを失うことであるゆえに、「あなたの中にある光が消えていないか調べなさい」と強調されているのです。つまり、一人の人の痛みや苦しみに敏感に気づき、立ち止まってその人の痛みや苦しみに寄り添い、その人が癒やされるように支えていくことが、長い目で見れば、その組織全体を輝かせていくことに繋がると言っているのです。そして、このような回り道こそが、三愛精神の「人を愛し」を学園に息づかせていくことに繋がっていくのです。

酪農学園大学より

Vol.148
2019.7.15

発行:学校法人酪農学園

酪農学園大学／大学院／とわの森三愛高等学校

編集:入試広報センター 広報課

T069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地

TEL (011)388-4158 FAX (011)388-4157

HPアドレス:https://www.rakuno.ac.jp

E-mail:koho@rakuno.ac.jp

印刷:社会福祉法人 北海道リハビリ

※本紙の内容を無断で複写・複製(コピー)することを禁じます。